



イエスの復活を覚えるイースター



岩井キリスト教会牧師 原田帆海路

□ 十字架の意味

イースターとは、イエス・キリストの復活を覚える日です。ですからイエスの十字架の死の意味が分からなくては、イエスの復活によってもたらされる本当の喜び(ハッピーイースター)を味わうことはできません。聖書はこのように教えています。

キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

ペテロの手紙第一 2章24節(新改訳2017)

初めの人アダムとエバによって罪が世界に入って以来、罪の自覚ある無しに関わらず私たちはみな生まれながらに罪を持っています。その罪がこの社会において様々な形で顔を出しているのです。あるいは心の内に何とか秘めているかもしれませんが、罪に悩み、傷つき、苦しんでいます。イエス・キリストは、私たちが苦しめる罪の問題を解決するために、この世に来てくださいました。神の子であり、罪の全くないお方が、全人類の罪の身代わりとなって十字架にかかってくださったのです。このイエス・キリストの十字架を「私の罪の身代わりの十字架である」と信じるならば、私たちに罪の赦しが与えられます。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネの福音書 3章16節(新改訳2017)

□ イエスの復活

十字架にかかって死なれたイエス・キリストは三日目によみがえられました。イースターの朝、十字架で死なれたイエスが葬られている墓に駆けつけた女性たちが、そこで見たのは「空っぽの墓」と「御使い」でした。そして御使いが彼女たちに語るのです。

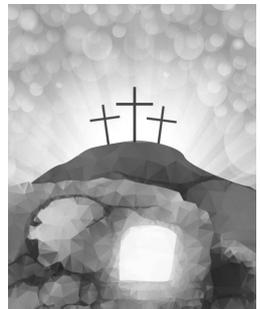
「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。」

ルカの福音書24章5～6節(新改訳2017)

イエスはこのように語っておられました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。(ヨハネの福音書11章25節)」まさにこのみことばが実現しました。そしてイエス・キリストを信じる者は、復活の主イエスのいのちに結びつけられ、死んでも生きる者とされるのです。

十字架の道、それは受難の道でした。しかしそれは復活に続く栄光の道となりました。私たちがイエス・キリストを信じ、復活のイエスのいのちに結びつけられるならば、今のこのときの受難の道が、栄光の道とされるのです。なぜなら苦難から栄光へと進んだ主イエスの十字架による救いが、私たちの歩む道を希望の光で照らすからです。

闇が深まり、いのちが削られていくような困難な時代ですが、復活の主イエス・キリストのいのちに信仰によって結びつけられ、栄光へと続く道を歩みませんか。



〒306-0631 茨城県坂東市岩井3269番地1

Tel&Fax 0297 (35) 1448

ホームページ <http://park21.wakwak.com/~iwaicc>

メールアドレス iwaichurch1955@aa.wakwak.com

